



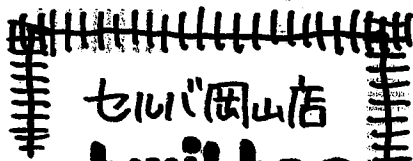
# 『暮らしのヒント集2』

松浦 弥太郎 暮らしの手帖社  
1,296円

雑誌『暮らしの手帖』の人気連載をまとめ、2010年に発売された1冊。(第1弾もあり)例えば「やわんの底が黒ずんでいたら、磨いてきれいにしてあげよう」靴を脱いだときは必ず靴を揃えようなど、言われるとハッとくる、きちんと丁寧な暮らしをおくるためのヒントから、「自分の気に入った言葉やちょっと文章を書いてみよう」「人の関係の問題が起きたときは、人ではなく起きた問題を見つめ、どうしたらよいか考えて解決しよう」など、そのヒントに書かれているように学びたい、心掛けたい、と感じるようなものまで、全部で459のヒントが、淡々と並んでいます。はじめも終わりもなく、その日にぱっと開いたところがその日のページ。暮らしをより美しく、より楽しくしていく手がかりが、ぎと見つかるはず。読んでいて、自然と背筋が伸びるような気がします...



ふいに無性に読みたくなる



## セルバ岡山店 twitter

はじめました!!

地域密着型の書店として、  
フェア・セール・イベント情報  
などのご案内をいち早く、  
リアルタイムでお届けします!  
@selvaokayama  
是非フォローしてください!



文芸『また、同じ帯を見ていた』住野よる/双葉社、1,512円(好評発売中)/デビュー作にして25万部を超えるベストセラーとなり、今年の本屋大賞にもノミネート中の『君の隣臓を食いたい』の著者・住野よるが送る、待望の新作。著者が「実はデビューまでに書いたお話の中で最も気に入っている主人公」と語るのは、頭が良く可愛くて、自信家で変に素直で学校に友達が少ない「私」。そんな「私」が出会ったのは、リストカットを繰り返す女子高生、アパレルと罵られる女に、一人静かに余生を送る老婆。彼女たちの幸せは、どこにあるのか。「やり直したい」ことがある、今がうまくいかない全ての人たちに送る物語。◆ビジネス『レナソニックV字回復の真実』平川紀義/KADOKAWA、1,512円(3月11日発売予定)/会社はV字には戻らなくてV字には戻らなくてV字回復した!「経営の神様」松下幸三郎が作りあげた名門レナソニックが2年連続7,000億円以上の赤字に転落、そこから「原点回帰」でV字回復を成し遂げるまでを現場で目撃した著者が語る真実とは。◆実用『美しいまじき大人のぬり絵 うつくしい花園編(仮題)』竹書房、1,037円(3月24日発売予定)/みずみずしい花と果実、アンティークな花模様がぬり絵になりました。脳の活性化はもちろんだこと、アンチストレスにも効果的!話題の大人のぬり絵、色紙は出版社から色紙が揃ったものが揃うので、是非自分にぴったりの一冊を探してみてください。

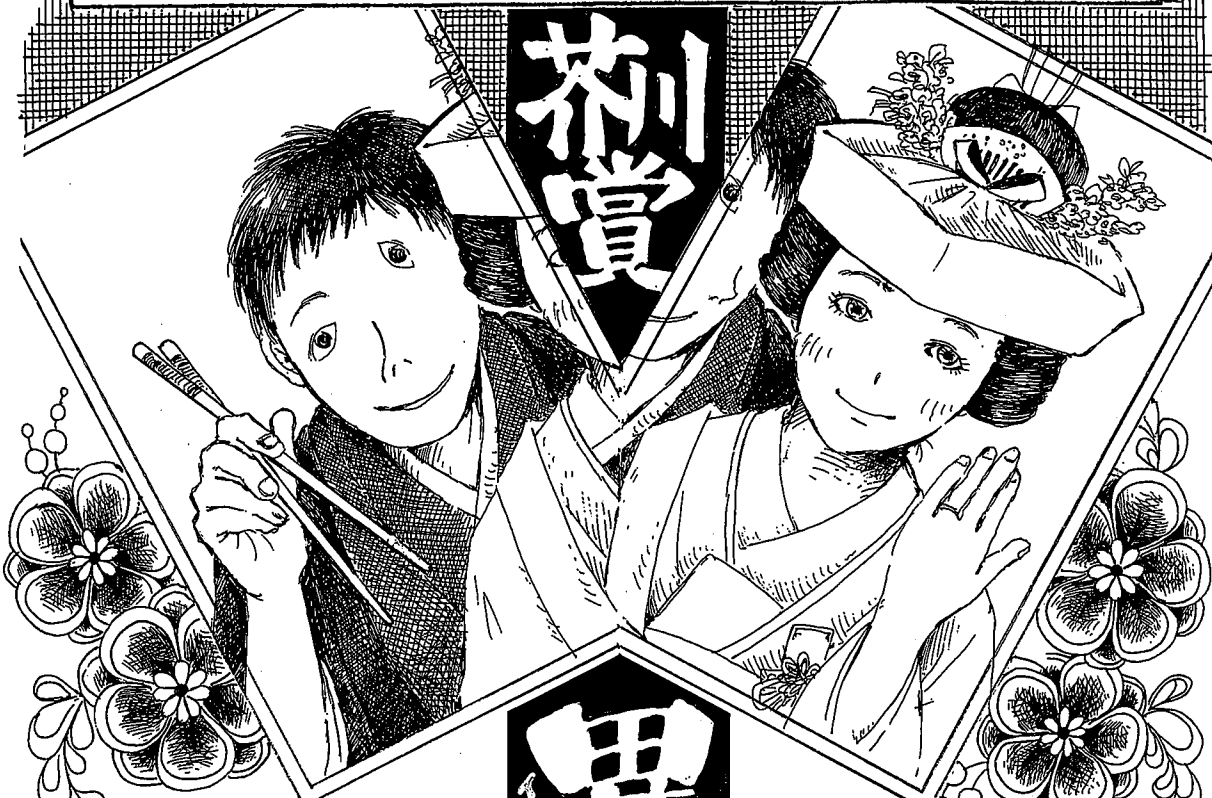
3月下旬発売!  
『楽園のカンパス』から4年、原田マハが巨匠ピカソの超大作『ゲルニカ』に挑む。アートスペースをご紹介!



# 暗幕のゲルニカ

岡山店(ドレミの街5F) 10:00~20:00 / 電話 086-234-6006 / 〒700-772 086-234-6003  
X-iv hselva@po.harenet.ne.jp / ホームページ http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72050  
西口店(秦連町商店街内) 9:30~16:30、日・月休 / 電話 086-250-4301  
ホームページ http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72059 〒700-772 086-250-4316  
さんすて岡山店 8:00~20:00 / 電話 700-772 086-803-2650 / X-iv pselva@po.harenet.ne.jp

2016年 本が好きなひと  
MONTHLY SELVA  
Since 2006 04 SELVA  
マンスリーセルバ 2016年3月 第14号\*



本谷有希子・作

講談社 1,404円

# 異類婚姻譚

◆「異類婚姻譚」とは、人間と違った種類の存在と人間とが結婚する説話の総称。世界的に分布し、日本においても多く見られる説話類型である。(…というのは、Wikipediaより)  
◆いつの間にか、私は人間以外のものと結婚してしまっている。  
子供もなく職にも就かず、安楽な結婚生活を送る専業主婦の「私」は、ある日、自分の顔が夫の顔とそっくりになっていることに気付く。疑わしいがギョロギョロと目を、初対面の人には十中八九不快な印象を与える夫の顔と、(ほどほどに平凡で真白の葉書のようにのびりした「私」の顔。二人を似ているという人はまさ

しいに似るうに、どうして似てきたのだなんて感じたのか。よく見ると、夫の顔は臨機応変に変化しているようだ。ある時は体裁を保つ夫の顔、ある時は「私」に似せた顔、そしてまたある時は、目鼻の位置すら崩れた、人ではない何か。  
◆全く別の人生を歩み、別の人格を持った、全く別の存在であるあの二人が結婚という形で結ばれる。同じ家に住み、同じものを食み、同じ匂いの中で、同じものを見る。だから夫婦だから。どうやって寝食を共にあるうちに気付かぬうちに「私」にも変化が訪れて——他人同士が身内になる。そんな夫婦の不可思議を描いた第154回芥川賞受賞作。

# 夜

『夜歩く』  
横溝正史 角川文庫 605円

「われ、近く汝のもとに赴きて結婚せん」という奇妙な手紙と、首から上げ切り取られた男の写真が、古神家の美しき令嬢・八千代のもとに舞い込んだ。その3日後に起きた、チャペル『花』での新進画家・蜂谷小市狙撃事件。代々古神家の家老をつとめる家柄であり、今や古神家を支えている山石家の跡取り息子・山石直記と同郷の友人・屋代寅太は、警察が追う狙撃事件の犯人が実は八千代であることを知る。

二人の心算をよそに、自由奔放な八千代は、自ら狙撃したのは蜂谷小市を結婚相手として屋敷に招待する。傍若無人な蜂谷は、情欲をまだして妹の八千代に求愛する兄・古神守衛と次第に対立しはじめ、ついには直記の父・金鉄と直記の間にも問題を起す。そしてその日、一族の面々が勢揃いした古神家の化物屋敷で、憎悪、貪欲、不倫、迷信、嫉妬、ありとあらゆるどす黒い感情がもたらした、連続殺人事件の幕が、



て叩き落とされたのであった——！  
推理小説は、読めば読めばほど「途中から人からちやちや」「あの作品のあのトリックと似ている」と思いつつ、なかなか純粋におどろく、ということが少なくなったり...ということもありがち...。でも、『夜歩く』、この作品は犯人トリック云々言わずに、とにかく、まずは読んでみて欲しいところだ。

■金田一耕助シリーズといえば、陰惨な血統の呪い、古き因習に縛られた村の一族、戦後の混乱と狂気、ひとり浮世離れた美しさを放つヒロイン...などが、それらの魅力がこれでもかと存分に味わえ、また、ラストは大胆かつ哀しい。全体がこの暗く狂った物語を引き立てる道具としかなく...何度も読み返してしまいます。

# 失

『失脚/巫女の死』  
デュレンマット 光文社古典新訳文庫 1.132円

■いつもの列車は知らぬ間にスピードを上げ...日常が突如変貌する『トンネル』、自動車のエンジンのため、鄙びた宿に泊まった男の意外な運命を描く『故障』など、本邦初訳を含む4編を収録した短編集。

■表題作『失脚』では、登場人物には名前を持たず、A、B、C...とアルファベットで表示され、いつの時代のどの国家の話なのかは特定されない。蕭条の恐怖が支配する会議にて、核開発大臣の欠席をきっかけに、序列1位から15位までの閣僚たちが、決死の心理戦を繰り広げることにも...。弱みを握られ、いつ潰されても不思議でない者、糾弾なる革命理論を至上とする者、権力欲にとりつかれた者に、残酷な恐怖政治を広めた者、野心家たちが次々と犠牲になつた結果、序列が上がり、なによりにもない閣僚に押し上げられた者。そして、絶対的独裁者A。罨をかけた、保身を願う、相手を失脚させようとする彼らの行きつく先に何が待つのか。巻末の訳者解説によると、「冷戦時代らしい作品で、ソ連を思い浮かべる人が多いのでは...」ということだが、登場人物のアルファベット表記のせいで、色々な想像が出来てしまう。人によって思い浮かべるものは違ふのではないだろうか。これを作者の思ひほ、かもしません。

■そして、この文庫は『失』についても言及しておかねば。この文庫用に作られた装がとにかく便利。読めば読

ほど呼び名やエピソードが増え、次第に誰が誰だか?と混乱して来る登場人物たちについて、簡潔にまとめられています。例えば「A: 国家と党のトップ、B: 外務大臣、革命のクラウゼヴィッツ」または「宦官」といった具合に。この装がなければ、ちゃんと物語を追うことは出来なかったかも。出版社の配慮が素晴らしい。そして、訳者の解説も、ほとんどの日本人が知らないであろうこの作家、作品への愛と、多くの人にこの面白さを伝えたい、広めたい、という思いを感じます。外国文学は普段読まないし...という方も、たまには外国文学、如何ですか。 ↓外文もう一冊どうぞ!

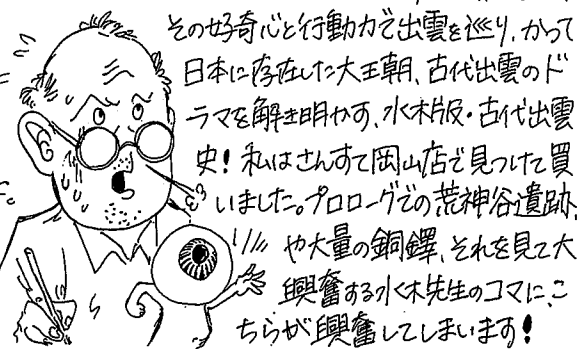


# 水

『水木いげるの古代出雲』  
水木いげる 角川文庫、778円

■昨年11月に亡くなった漫画家・水木いげるが古代出雲に隠された壮大な謎に迫った傑作漫画!

神の住まう島根県沖、隠岐の島は、水木いげるの実家・武良家のルーツでもある。何度も夢に現れる出雲族の青年の「我々滅ぼされた出雲族の物語を描け」という言葉に導かれるようにしてパンを取った水木いげるが鼻息荒く、



# セバ売上Ranking

1. 背信 銀行・弁護士の黒い画策 林原靖 / ワック株式会社、1,620円
2. 異類婚姻譚 本谷有希子 / 講談社、1,404円
3. あの日 小保方晴子 / 講談社、1,512円
4. 天才 石原慎太郎 / 幻冬舎、1,512円
5. 資本主義の終焉 その先の世界 柳原英資、水野和夫 / 詩穂社、994円
6. 火花 又吉直樹 / 文藝春秋、1,296円
7. 女子の教養 (たしなみ) 石川真理子 / 致知出版社、1,512円
8. 置かれた場所で咲きなさい 渡辺和子 / 幻冬舎、1,028円
9. フツの会社員だった僕が、青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉 原晋 / アスコム、1,404円
10. 生田絵梨花 1st写真集 転調 細居幸次郎 撮影 / 集英社、1,836円

# 文庫Ranking

1. 旅立/朝 居眠り磐音江戸双紙 51 佐伯泰英 / 又葉社、700円
2. 望郷 漆谷なえ / 文藝春秋、594円
3. 残穢 小野不由美 / 新潮社、637円
4. 色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年 村上春樹 / 文藝春秋、780円